

施策評価シート

施策等名称	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	体系番号	0201020303
		主管課	生涯学習課

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市は悠久の歴史と八ヶ岳を背景に広がる風土に培われ、特色ある郷土文化と数多くの文化財が遺されています。これらの保護・保存・活用について検討し、市民の文化財に対する理解と関心を高めていく必要があります。郷土文化を次世代に引き継いでいくとともに、世代間交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図ることが求められています。また、郷土出身や郷土ゆかりの芸術家の作品は地域の大切な宝であることから、適正に収集・保存管理し、調査研究するとともに、魅力のある展示等を開催し、市民の文化芸術に対する興味や関心を高め、鑑賞や創造活動の裾野を広げていくことが重要です。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	茅野市の特徴ある文化を育て、活用し、広く発信する取組を進めます。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2022年度目標値	2027年度目標値
①	「まちづくりに縄文文化や国宝などの文化遺産が活用されている」と思う市民の割合	(%)	65.70	75.00	80.00
				80.00	80.00
				80.00	80.00
②	「文化財の保護と活用」が重要だと思ふ市民の割合	(%)	51.80	60.00	70.00
				70.00	70.00
③					

施策の柱 1	名称	文化財の保存と活用	主管課	文化財課			
	詳細	文化財の保存と活用保存、調査、公開を行うとともに、地域学習、解説ボランティアの育成を図ります。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	文化財保護率	保護件数/指定文化財件数(%)	100.00	100.00	1 文化財保護事業(一般事業)	実施
					100.00	2 文化財保護団体育成支援事業	実施
	2	指定文化財件数	国・県等指定文化財件数(件)	102	106	3	
					110	4	
	3					5	
						6	

基本政策間連携

施策の体系	施策の柱 2	名称	芸術・メディア芸術作品の保存と活用	主管課	生涯学習課			
		詳細	芸術・メディア芸術作品の保存と活用保存、調査、公開を行うとともに、教育普及、産業・観光分野での活用の推進を図ります。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	美術館収蔵作品展の入館者数	収蔵作品展年間入館者数(人)	6,118	6,200	1 美術館資料収集・保管事業	実施
						6,500	2	
		2					3	
							4	
		3					5	
							6	

基本政策間連携

施策の体系	施策の柱 3	名称	伝統文化の継承と交流の促進	主管課	文化財課			
		詳細	伝統文化の保存、継承活動を促進し後継者の育成を行うとともに、学校における伝統文化学習・体験機会の充実を図ります。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	体験型講座「縄文教室」申込率	申込数/定員/100(%)	-	70.00	1 縄文教室事業	実施
						70.00	2 尖石ボランティア事業	実施
		2					3	
							4	
		3					5	
							6	

基本政策間連携

施策評価シート

施策等名称	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	体系番号	0201020303
		主管課	生涯学習課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系	名称		歴史的景観の保全と活用		主管課	文化財課		
	詳細		地域の特色ある歴史・文化に関する学習機会の充実と、地域の魅力を発信する取組を推進します。					
	施策の柱 4	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分
		1	「文化財の保護と活用」が重要だと思う市民の割合 (%)	51.80	60.00	1	縄文の里史跡整備活用事業	実施
					70.00	2	縄文を識る推進事業	実施
		2				3		
						4		
		3				5		
						6		
	基本政策間連携							
	名称				主管課			
	詳細							
	施策の柱 5	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分
		1				1		
						2		
		2				3		
						4		
		3				5		
					6			
基本政策間連携								
名称				主管課				
詳細								
施策の柱 6	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業		区分	
	1				1			
					2			
	2				3			
					4			
	3				5			
					6			
基本政策間連携								

施策等名称	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	体系番号	0201020303
		主管課	生涯学習課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	「まちづくりに縄文文化や国宝などの文化遺産が活用されている」と思う市民の割合	65.70	64.30	57.80	-	-	-
		75.00	85.73	77.07	-	-	-
変動要因等	2018年度	市民アンケートによる関心度。1.4%減。					
	2019年度	市民アンケートによる関心度。6.5%減。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2022年度	市民アンケートの内容変更により項目削除。					
施策	「文化財の保護と活用」が重要だと思市民の割合	51.80	63.10	54.40	-	-	-
		60.00	105.17	90.67	-	-	-
変動要因等	2018年度	市民アンケートによる重要度。11.3%増。					
	2019年度	市民アンケートによる重要度。8.7%減。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2022年度	市民アンケートの内容変更により項目削除。					
柱1	文化財保護率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
1		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	104件の指定文化財を良好な状態に維持・保存している。					
	2019年度	104件の指定文化財を良好な状態に維持・保存している。					
	2020年度	104件の指定文化財を良好な状態に維持・保存している。					
	2021年度	104件の指定文化財を良好な状態に維持・保存している。					
	2022年度	104件の指定文化財を良好な状態に維持・保存している。					
柱1	指定文化財件数	102	104	104	104	104	104
2		106	98.11	98.11	98.11	98.11	98.11
変動要因等	2018年度	長野県宝指定「信州の特色ある縄文土器」(158点のうち47点)、茅野市天然記念物指定「下菅沢の祖霊桜」の2件増。					
	2019年度	長野県宝指定「信州の特色ある縄文土器」(158点のうち47点)					
	2020年度	指定文化財の件数に変動はなかった。					
	2021年度	指定文化財の件数に変動はなかった。					
	2022年度	指定文化財の件数に変動はなかった。					
柱2	美術館収蔵作品展の入館者数	6,118	7,273	4,903	6,493	6,315	8,939
1		6,200	117.31	79.08	104.73	101.85	144.18
変動要因等	2018年度	1,155人増加。市制施行60周年記念企画展(東山魁夷作品の展示)の波及効果もあり、収蔵作品展への入館者が増加した。					
	2019年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、年度末に開催している収蔵作品展の関連企画等が中止となり入場者数が大幅に減少した。					
	2020年度	多くの事業が新型コロナの影響を受ける中、美術館収蔵作品展は例年並みの入場者数となった。これまでも藤森照信氏の収蔵作品展は開催してきたが、今回、藤森氏の冠をつけたことにより入場者数が増加したと推測される。					
	2021年度	多くの事業が新型コロナの影響を受ける中、美術館収蔵作品展は例年並みの入場者数となった。篠原昭登氏や藤森照信氏の収蔵作品展は知名度も高く入場者数が増加したと推測される。					
	2022年度	コロナ禍以前の入場者数と比べても増加。					
柱3	体験型講座「縄文教室」申込率	-	66.00	76.00	0.00	140.00	103.33
1		70.00	94.29	108.57	0.00	200.00	147.61
変動要因等	2018年度	縄文教室は10回開催し、定員に対し66%の申込があった。					
	2019年度	総定員100人に対して76人申込。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、総定員を20人とした。その総定員20人に対して28人申込。					
	2022年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、総定員を60人とした。その総定員60人に対して62人申込。					

施策等名称	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	体系番号	0201020303
		所管課	生涯学習課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱4 1	「文化財の保護と活用」が重要だと思う市民の割合	51.80	63.10	54.40	-	-	-
		60.00	105.17	90.67	-	-	-
変動要因等	2018年度	市民アンケートによる重要度。11.3%増。					
	2019年度	市民アンケートによる重要度。8.7%減。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民アンケートは実施されなかった。					
	2022年度	市民アンケートの内容変更により項目削除。					

施策等名称	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	体系番号	0201020303			
		主管課	生涯学習課			

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)	
投資額	事業費(円)	5,201,981		6,746,206	1.30	6,362,682	0.94	6,196,962	0.97	7,411,025	1.20
	うち一財(円)	4,018,093		5,636,352	1.40	5,454,504	0.97	5,951,674	1.09	6,367,225	1.07
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)			文化財保護費のうち、「史跡整備・管理費」と「縄文の里史跡整備活用事業費」が統合されたための増。							
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調	
総合評価	主な取組内容や成果	現在、美術館の資料収集は寄贈に頼っている状況であるが、今年度も貴重な作品10点(スケッチ・写真等)を受入することができ、特色ある作品展の開催に結び付けることが可能となっている。		前年度に引き続き文化財の価値を損なうことなく、地域文化遺産の保護・保全がされた。美術館の資料収集は地域にゆかりのある作品46点を受入することができ、特色ある作品展の開催に結び付けることが可能となっている。		前年度に引き続き文化財の価値を損なうことなく、地域文化遺産の保護・保全がされた。美術館収蔵作品展ではコロナ禍においても多くの入場者があった。		引き続き文化財の価値を損なうことなく、地域文化遺産の保護・保全がされた。美術館の資料収集は地域にゆかりのある作品29点を受入することができた。このことにより特色ある作品展の開催に結び付けることが可能となり、収蔵作品展では多くの入場者があった。		(R4評価)文化遺産の価値を損なうことなく、適正に保存、保全された。美術館では地域にゆかりのある作品15点を受入。語り伝承グループによる「語り伝承第4集」が発刊され、風習や生活、体験の貴重な記録が残された。(総括評価)郷土文化を適正に収集、保存、保全など行われ、特色ある展示等の開催が可能となっている。	
	課題	公立美術館の役割である資料収集、作品展示、調査研究のうち、資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し審査を行っている。市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう指定管理者との連携が必要。		文化財を取り巻く環境は悪化しており、保護・保全にはこれまで以上の経費が必要となる。公立美術館の役割である資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し審査を行っているが、市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう指定管理者との連携が必要。		公立美術館の役割である資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し審査を行うことになっているが、コロナの影響により会議が開催できない状態である。適正な収集と活用ができるよう検討していきたい。		文化財を取り巻く環境は悪化しており、維持管理のための財源確保や次世代への継承が課題である。寄附等検討委員会においては市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう進めるとともに、美術館として必要とする作品が受入できる仕組みづくりの検討が必要。		(R4・総括評価共通)文化遺産の維持管理費の確保、次世代への継承、魅力ある地域づくりのための活用が課題である。美術品寄附等検討委員会では市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう進める必要がある。	
改革・改善	改革・改善内容	郷土出身作家の特色ある作品を多く収蔵する館として、その作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策の検討が必要。寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。		現状を的確に把握、保存・整備し公開することで、文化財保護の意識を高めることにより、次世代へ継承する取組を進める。郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策の検討が必要。寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。		現状を的確に把握、保存・整備し公開することで、文化財保護の意識を高めることにより、次世代へ継承する取組を進める。今後も、郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策の検討が必要。寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。		文化財所有者の保護意識を高める取組み及び、文化財パトロールによる保護に資する情報提供の継続。郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策など寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。		(R4・総括評価共通)所有者の保護意識を高める取組みと文化財パトロールによる保護に資する情報提供を継続する。公民館事業と連携した学習の場を設け、住民に文化財の価値や魅力を知ってもらい、郷土にゆかりのある作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策など美術品寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。また、美術品寄附等検討委員会で適正な収集と活用ができるよう内規の検討を行う。	
	重点化する施策の柱	2		1		1		1		1	
	重点事務事業	1		1		1		1		1	
理由	郷土出身やゆかりの芸術家の作品は地域の宝でもことから貴重な作品や関連資料を適正に収集・保存管理し調査研究するとともに、魅力ある展示等を開催し市民の文化芸術に対する興味・関心を高め鑑賞や創造活動の拡大につながるが重要。		市内の優れた文化財を後世に伝えるためには、特色ある郷土文化と数多くの文化財の保護・保存・活用により、市民の文化財に対する理解と関心を高めていく必要がある。		市内の優れた文化財を後世に伝えるためには、特色ある郷土文化と数多くの文化財の保護・保存・活用により、市民の文化財に対する理解と関心を高めていく必要がある。		市内の優れた文化財を後世に伝えるためには、特色ある郷土文化と数多くの文化財の保護・保存・活用により、市民の文化財に対する理解と関心を高めていく必要がある。		市内の優れた文化財を後世に伝えるためには、特色ある郷土文化と数多くの文化財の保護・保存・活用により、市民の文化財に対する理解と関心を高めていく必要がある。		